

卷取之故以名之、

〔箋注倭名類聚抄八具〕玄應音義引埤蒼云、鰩魚腹中有骨、出南郡、背有一骨濶二寸許、有鬚甚長、

口中有墨、噴則溼人、陶隱居云、此是鰩鳥所化作、今其口脚具存、猶相似爾、陳藏器云、海人云、昔秦王東遊、棄算袋於海、化爲此魚、其形一如算袋、兩帶極長、墨猶在腹也、蜀本圖經云、背上骨厚三四分、

略 按說文、鰩、鳥鰩魚也、从魚則聲、又載鰩字云、鰩或从卽、是鰩鰩形聲字、其謂之鳥者、以腹中有墨之故耳、作鳥賊、假借也、羅願曰、卷取鳥似、無是理者爲得、但羅氏謂鳥所化故名鳥者、亦非是、

〔倭名類聚抄十九具體〕鳥賊墨 野王案、鰩魚、背有一大骨、腹中有墨、和名以加今案、背大骨、卽俗所謂甲也、

〔類聚名義抄十〕鳥賊魚 イカ

〔下學集上〕鳥賊 イカ

〔和爾雅六〕鳥賊 イカ 鰩魚、鰩魚、並同、シヤクハチイカ 明鯨、シヤクハチイカ 鹽乾者、シヤクハチイカ 哺鯨、シヤクハチイカ 淡乾者、シヤクハチイカ 海鰩、シヤクハチイカ 鰩魚也、シヤクハチイカ 鳥賊墨、シヤクハチイカ 柔魚、シヤクハチイカ 賊相

似、但、シヤクハチイカ 預管

〔大上臈御名之事〕女房ことば

一。す。る。め。よ。こ。か。み。ず。る。く。と。も、一。い。か。い。も。じ。

○按ズルニ、和名類聚抄ニハ、スルメヲ小蛸魚ノ一名ト爲セリ、事ハ海蛸條ニ在リ、參看スベシ、

〔東雅鱗介〕鳥賊魚 イカ 略 イカ の義不詳、大小また其類あり、イカ は其腹内に甲あるを云ひしと見

えたり、イカ 中略、イカ 書に見えし鳥鰩類、亦有數種、その柔魚似鳥賊、而長、色紫、晒乾食之と見えしものは、イカ 此にいふスルメイカといふ類也、イカ 瑣管、或云柔魚、第差小爾といふは、此にシヤクハチイカといふ類也、イカ 墨斗似瑣管、而小といふは、此にクモイカといふもの、其小なる蜘蛛に似たりと云ひけり、イカ 水朱氏はスルメとなすものは、柔魚とも梢魚ともいふ、その骨細薄なる者なりと云ひけり、イカ 舜

〔枕苑日涉八〕魚誓

鳥賊誓 イカ 略 イカ 中 鳥賊說文作鰩、鰩、玉篇鰩、或作鰩、埤雅曰、鳥鰩八足、絶短者集足在口、縮喙在腹、懷板合